

生活単元学習

小学校 特別支援学級
(知的障がい学級) 第5学年

OS・ソフト等

- iPad
- ロイロノート
- Qubena
- まなビューア

<単元・題材名等>

ききょう2組 エイエオー！
(自分の宝物をつくろう)

ねらい

1学期に学んだことやできるようになったことを、ICT機器を活用しながら、校内の先生方に発表することを通して、1学期の自分の頑張りに気づき、自己肯定感を高めるとともに、2学期からも主体的に取り組むためのきっかけをつくることができる。

主なICTの活用方法

- ・ 普段の学習について、写真や動画で記録する。
- ・ 協働学習支援ツール（ロイロノート）上で文字を入力する。
- ・ 児童の学びについて、ロイロノートを使ってまとめる。

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ 障がいによる困難さを改善・克服するためにICT機器を活用することができる。
- ・ 自分で使いやすい方法を選択することができる。
- ・ 必要な情報を整理し、自ら発信しようとすることができる。

実践の概要

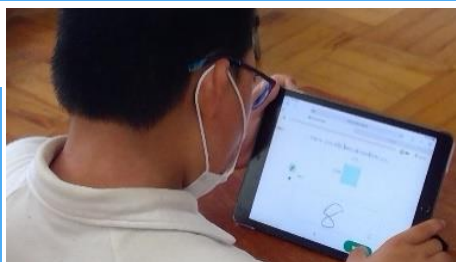
人と関わることが大好きな本児は、音読したり発表したりすることが得意であり、写真やイラスト等、視覚から得られる情報の理解は早い。一方で、関節の動きがスムーズでないため、書くことに対して負担が大きい。行事や活動の振り返りでは、体験したことを思い出し、順序立てて話すことに難しさがある。そのため、ICT機器を活用することで、本児のよさを伸ばし、苦手な部分の支援へとつなげる。

本単元では、学習内容や活動の記録についてロイロノートを使ってまとめ、発表の機会を繰り返し設定し、褒められる経験を積み重ねることで自己肯定感を高め、主体的に学べるようにする。

本時では、他の教員に対して、児童がAI型教材（Qubena）を使った学習、文字入力、暗唱などの1学期の学びについて発表を行い、その様子を振り返ることで主体的に学習に取り組む態度を育てる。

児童の学びの様子

- Qubenaを使った学習では、手書き入力の文字が正確に書かれていなくても認識されるため、書く活動に要していた多くの時間やエネルギーを、学習のねらいの実現に向けられるようになった。
- 五十音表を使ってかな入力をすることで、手書きで書くよりも、素早く見やすい文字を記入することができ、本児の満足感や次へのやる気につながっていた。
- ロイロノートの操作に慣れ、いつでも簡単に見直すことができるようになり、どの順番で話したら相手に伝わるのかを、実際にやりとりをしながら工夫し、「次は〇〇をします。」と内容のまとまりを意識しながら発表する姿が見られた。



指導のポイント

- 障がいによる困難さを改善・克服するためのICT機器の活用方法について、いくつかの選択肢を与えながらより学びやすい方法を工夫することで、自分の学びについての自己理解へつながるように促す。